



府子本第783号-1  
平成29年9月19日

文部科学省生涯学習政策局長 殿

内閣府子ども・子育て本部統括官  
(公印省略)

平成29年度「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」  
に関する募集期間の延長について（協力依頼）

平素より少子化対策の推進に御協力をいただき、御礼申し上げます。

【別添1】のとおり、平成29年度「家族の日」「家族の週間」実施要綱を決定し、「家族の日」「家族の週間」の一環として、子育てを身近な地域社会で支えることの重要性に対する理解と関心を高めることを目的に、広く国民（小学生以上）から「写真」、「手紙・メール」を募集し表彰する「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」を今年度も7月より募集したところですが、より多くの応募をいただくため、募集期間を延長することといたしました。

貴団体及び貴管下の関係諸機関、団体等の広報誌・機関紙等への掲載等を通したコンクールの周知について御協力いただくとともに、積極的な作品の応募について、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

コンクールの具体的な内容については、【別添2】を参照下さい。

募集期間： 9月8日（金）募集締切を  
10月31日（火）に延長

(本件連絡先)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

中央合同庁舎第8号館8階

内閣府子ども・子育て本部

少子化対策担当 阿部、浅田

電話：03-6257-3090 F A X：03-3581-0992

メール：yoshinobu.abe@cao.go.jp

eri.asada.v7p@cao.go.jp

## 平成 29 年度「家族の日」「家族の週間」実施要綱

平成 29 年 6 月 1 日  
内閣府特命担当大臣決定

### 1 趣旨

子供と子育てを応援する社会の実現のためには、子供を大切にし、社会全体で子育てを支え、個人の希望がかなえられるバランスの取れた総合的な子育て支援を推進していく必要がある。

このため、「新しい少子化対策について」（平成 18 年 6 月 20 日少子化社会対策会議決定）等に基づき、平成 19 年度から、11 月の第 3 日曜日を「家族の日」とし、さらに、その前後 1 週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として、生命を次代に伝え育んでいくことや、子育てを支える家族と地域の大切さが国民一人一人に再認識されるよう呼び掛けてきたところである。

また、平成 27 年 3 月 20 日に閣議決定された「少子化社会対策大綱」においても、「結婚、妊娠、子供・子育てに温かい社会の実現」に向け、多様な家庭や家族の形態があることを踏まえつつ、「家族の日」や「家族の週間」において、様々な啓発活動を展開し、家族や地域の大切さ等についての理解の促進を図ることとされている。

これらを踏まえ、平成 29 年度においても、地方公共団体、関係団体等と幅広く連携・協力し、行事の開催や啓発の実施などの取組を行うこととする。

### 2 実施時期

平成 29 年度の「家族の日」及び「家族の週間」を次のとおり定める。ただし、地方公共団体、関係団体等、各々の実施主体が実施する事業は、それぞれ適切な時期に行う。

#### (1) 家族の日

平成 29 年 11 月 19 日（日）

#### (2) 家族の週間

平成 29 年 11 月 12 日（日）から 25 日（土）まで

### 3 実施体制

総務省、文部科学省、厚生労働省等の関係省庁と連携を図りつつ、内閣府において事業を実施する。また、地方公共団体及び関係団体等に対しても連携・協力を呼び掛ける。

### 4 主な実施事項

#### (1) 大会の開催

地方公共団体等の協力を得て、「家族の日」に合わせて、家族や地域の大切さ等について呼び掛けるための全国大会を開催する。

#### (2) 表彰の実施

家族や地域の大切さ等に関する作品を募集し、優秀作品について表彰を行う。

#### (3) 関係省庁、地方公共団体及び関係団体等との連携・協力

関係省庁、地方公共団体及び関係団体等に対し、地方公共団体の「家庭の日」など各主体が実施する事業等を通じて、本事業と積極的な連携・協力を図るよう呼び掛ける。

## 5 その他

- (1) より効果的に事業を実施する観点から、必要に応じ連絡の場を設けるなど、関係省庁、地方公共団体及び関係団体等との積極的な連携を図り、相乗効果の確保に努める。
- (2) この要綱に定めるもののほか、「家族の日」「家族の週間」に関し必要な事項は、内閣府子ども・子育て本部統括官が定めるものとする。

## 平成 29 年度「家族の日」「家族の週間」

御協力いただきたい内容について

### 1 「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」作品募集の周知について

「家族の日」「家族の週間」の一環として、子育てを身近な地域社会で支えることの重要性に対する理解と関心を高めることを目的に、広く国民（小学生以上）から「写真」、「手紙・メール」を募集し表彰する「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」\*1を今年度も実施することといたしました。

貴団体及び貴管下の関係諸機関、団体等の広報誌・機関紙等\*2への掲載等を通じたコンクールの周知について御協力いただくとともに、積極的な作品の応募について、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

\*1 文部科学省発行の道徳用教材「わたしたちの道徳（小学校 3・4 年生用）」に平成 23 年度作品コンクール優秀作品（「手紙・メール」部門／小学生の部）が掲載されました。

\*2 広報誌掲載文（例）：以下、適宜ご活用ください。

内閣府では、子育て家族やそれを支える地域の大切さに関する「写真」「手紙・メール」を募集しています。（※切 9 月 8 日）あなたのあたたかい気持ちを作品にして応募してください。

#### 「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」概要

##### ◆ 募集内容：

##### 「写真」部門（いずれかのテーマを選択）

テーマ①：子育て家族の力（子育て家族の絆、子供と深める家族の絆）

テーマ②：子育てを応援する地域の力（地域ぐるみやボランティアで子育て支援）

##### 「手紙・メール」部門

テーマ：子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、又は、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

募集区分：小学生の部、中・高校生の部、一般の部の 3 区分

◆ 募集期間：平成 29 年 7 月 1 日（土）～9 月 8 日（金）

◆ 表 彰：募集テーマ、区分ごとに最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点以内。

いずれも、内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰と副賞。

◆ 応募方法など詳しくは内閣府「家族の日」「家族の週間」ホームページに掲載

「家族の日」で検索 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

### 2 「家族の日」ロゴマークを活用した「家族の日」の認知啓発

「家族の日」「家族の週間」について、広く認知啓発を図るため、ロゴマークを定めています。貴団体で実施する関連行事等に積極的に活用いただきますようお願いいたします。使用方法など詳しくはホームページをご覧ください。



やっぱり、家族っていいね。

家族の日  
家族の週間

家族の日は、11月第3日曜日 家族の週間は、家族の日 前後各1週間

「家族の日」で検索

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>



## 家族の日 家族の週間

### 応募期間

**平成29年7月1日(土)～10月31日(火)**

※郵送の場合は、当日の消印有効

### 応募点数

「写真」「手紙・メール」それぞれ一人1点まで

### 発表

最優秀作品・優秀作品は、平成29年11月25日(土)「家族の週間」最終日に発表します。

### 作品集

入賞作品は作品集にまとめ、入賞者及び関係者各位に配布します。また、内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」に掲載します。

### 応募先

応募要領については中面をご確認ください。

【郵送の場合】

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25

JTBビル6F

株式会社Jプロデュース内

「家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局」

【電子メールの場合】

kazokunohi29@jproduce.co.jp

【PCサイトの場合】

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

(内閣府ホームページ「家族の日 家族の週間」)

### その他

- 1.審査の結果は、入賞者のみ本人あてに通知します。
- 2.応募作品の一切の権利は、内閣府に帰属します。
- 3.応募作品は一切返却しません。
- 4.応募は未発表かつオリジナルの作品に限ります。
- 5.応募者の個人情報の取扱いについては、「家族の日」「家族の週間」の展開に必要な範囲で利用します。応募者の同意を得ずに、利用目的を超えて利用したり、第三者に開示することはありません。
- 6.電子メールによる応募の際、添付ファイルがウイルスに感染されていると作品が事務局に届きませんので、予めご了承ください。
- 7.入賞者の作品に明記した情報は、「家族の日」「家族の週間」等を展開する中で、必要に応じ、利用、提供します。また、入賞作品は、内閣府ホームページ、「家族の日」フォーラム等で展示します。

#### 【審査基準】

- (1) テーマ性(写真、手紙・メール部門共通)
  - ①募集テーマ「家族や地域の大切さ」に則している
  - ②明るい夢や希望が感じられる
  - ③作者独自の家族観・地域観がうかがえる
- (2) 表現力(写真、手紙・メール部門共通)
  - ①テーマを十分に表現し伝えている
  - ②見る人、読む人を引き付ける魅力を備えている
  - ③作品としてのクオリティ
  - ④作品のオリジナリティが伝わってくる
- (3) 総合力  
(写真部門)  
写真とタイトル及びエピソードの調和がとれている  
(手紙・メール部門)
  - ①文章がわかりやすく、読み手が理解できる
  - ②構成にまとまりがある
  - ③意味を十分に理解している

平成29年度

# 家族や地域の大切さに関する作品コンクール

写真&手紙・メール

作品募集中

【応募期間】  
7/1(土)

10/31(火)  
期間延長しております。



〔11月の第3日曜日〕

**11月19日(日)は「家族の日」**

〔家族の日の前後各1週間〕

**11月12日(日)～25日(土)は「家族の週間」**

主催

内閣府

お問合せ

家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局

**☎06-4964-8864** (平日10時～17時)

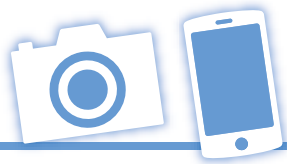
電子メール：kazokunohi29@jproduce.co.jp





# やっぱり、家族っていいね。家族や地域で支える子育て

## 写真部門



テーマ  
1

### 子育て家族の力（子育て家族の絆、子供と深める家族の絆）

（例）家族の団らん、パパの育児、3世代同居家族の様子、親子で一緒に楽しみながら何かに取り組んでいる日常の様子（食事作り、動植物の世話、楽器・スポーツの練習、語らいなど）、出産を控え家族で準備している様子等、子育て家族の絆やあたたかさ、ほほえましさを表しているもの



審査員

カメラマン  
渡部陽一氏 ほか

テーマ  
2

### 子育てを応援する地域の力（地域ぐるみやボランティアで子育て支援）

（例）地域と子供達とのふれあいの様子、地域での子育てイベント（お祭り、親子教室、子育てひろば、子供と他世代との交流、地域の見守り活動など）、ワーク・ライフ・バランスの取組（定時退社し子育てイベントへの参加など）、子育てサークルの様子等、地域や社会で子育てを応援しているという姿を表しているもの

応募資格

小学生以上の者（プロカメラマンは除く）

応募要領

作品には、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト（内閣府ホームページ）にてご応募ください。

- ①応募テーマ、②作品タイトル、③簡単な解説（エピソード）（100字程度）、④郵便番号、住所、電話番号、⑤氏名（ふりがな）、⑥性別、⑦児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※2人以上を撮影した写真でご応募ください。  
※応募は一人1点で、デジタルカメラ、フィルムカメラまたはスマホカメラ、携帯カメラで撮影した、カラーまたは白黒プリント、もしくはデータでの応募とします。スマホや携帯電話での画像添付による電子メールでの応募も可能です。（3年以内に撮影した写真に限ります。）

賞

募集テーマごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。  
いずれも内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰。

家族や地域の結びつきの大切さが改めて見直されている今だからこそ、子育て家族の絆と、それを支える地域での子育て支援の大切さを見つめてみませんか。あなたのあたたかい気持ちを作品にして、ご応募ください。



## 手紙・メール部門

テーマ

### 子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、または、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

（例）子供から親・祖父母へ、姉姉から弟妹へ、夫から妻へ、妻から夫へ、親から子供へ、子育て応援している社長・上司・同僚から子育て社員へ、子育てを応援する地域の方から子育て中の人へ など

応募区分

1.小学生の部 2.中学生・高校生の部 3.一般の部

応募要領

作品は、200～400文字程度で、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト（内閣府ホームページ）にてご応募ください。

- ①応募区分、②作品タイトル、③郵便番号、住所、電話番号、④氏名（ふりがな）、⑤性別、⑥児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※スマホや携帯電話による電子メールでの応募も可能です。  
※原稿用紙による応募も可能です。

賞

募集区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。  
いずれも内閣府特命担当大臣（少子化対策）表彰。



## 「家族の日」「家族の週間」について

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として理解促進を図っています。

## 平成28年度 最優秀賞受賞作品

写真、手紙・メール両部門ともに、その他の入賞作品は内閣府ホームページ「家族の日」「家族の週間」をご覧ください。 <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

テーマ  
1

「三代目」「四世代」でせいの」  
鹿児島県 33歳男性



農業で家族を支えた祖父! 祖父の背中を見て育った父! 子育てに奮闘中の自分! そんな自分を成長させてくれる息子…四世代での子育てと支えあい。限られた時間での支え合いが素敵な時間を創ってくれます! 曾祖父の作った畑から…さてさて…何が出てくるかな?

作品のエピソード

テーマ  
2

「はじめてのドラム缶風呂」  
岐阜県 67歳男性



寺子屋行事での、ドラム缶風呂体験で3人も入る楽しい風景。

作品のエピソード

小学生の部

「おじいちゃん、れきして楽しいね」

宮城県 小学3年生 男子

ぼくが、れきしずきになったのは、きょ年のたん生日の時、おじいちゃんにれきしの本を買ってもらったのがきっかけでした。  
みなものよしつねを読んでいたらお父さんがおうしゅう平泉につれていってくれました。そして金色どうに行きました。ピカピカがやいて、こんなきれいなものがよく作れたなあと思いました。べんけいのおはかにも手を合わせました。  
だてまさむねを読んでいるときは、せんだいじょうあとと、ずいほうでんにつれていってくれました。ずいほうでんには、だてまさむね公のおはかがあります。ずいほうでんはもっと大きかったのにせんだいけいしゅうでやけてしまいました。せん台けいしゅうがあった日は、七月十日、ぼくのたん生日です。うれしいけど悲しい日です。本丸が見たかったなあと思いました。  
おじいちゃん、ぼくをれきしずきにいちばんすきなぶしうは、真田

まさ幸です。真田まさゆきのどこがすきかと言うと、二千と言うすくないへいで、とく川家やすのへいをおいかえたのがすごいと思いました。  
ぼくがまつおばしゅうを読んでいたときは、山寺につれていってもらいました。ぼしゅうと弟子のそらのぞうがあり、いっしょにそこにいる氣ぶんになりました。同じ所を歩いていたのかと思い、感とうしました。  
「ぼくもぼしゅうと同じ旅をしたい。」とお父さんに言ったら、「大きくになったら行ってもいいよ。」と言ってくれました。とても楽しみです。  
「月日は百たいのかかくにして行きかう年もまた旅人なり」と読んでいます。れきしの本を読むと平安時代に行ったり、せん国時代だい、え戸時代だいに行った氣になります。  
おじいちゃん、ぼくをれきしずきにしてくれて本当にありがとう。

中・高校生の部

「お母さんへ」

青森県 中学3年生 女子

「あやちゃん、おかえり。」ノートの文字から母の声が絵と共に聞こえてきそうだ。  
共働きの為、鍵っ子になった小三から毎日母は絵日記の連絡帳を書いている。今は、八十冊目となり、我が家では「ブログ」と呼んでいる。今夜のおかずや出来事が書いてある。震災の様子・ニュース、イベントや誕生日、そして怒られる私の事も書いてある。  
私は帰宅するとまず、ノートを読む。それは父も同じで、我が家の日常。夕食の時、家族でブログの内容をきっかけに会話も弾む。ブログは我が家の歴史となっている。  
母に聞いた事がある。「いつまで書き続けるの?」と。母は「書けなくなるまで書き続けるよ。」と笑っていた。  
スマホが普及する中、母の手書きの文字や絵から温もりを感じる。中三になった今、私はその事を感じられる。お母さんありがとう。

一般の部

「一瞬の出会い 一生の思い」

福岡県 30歳 女性

私の生まれ故郷は徳島県。嫁いだ先は福岡県。車ではフェリーを乗り継ぎ8時間。新幹線では4時間の小旅行を経て、帰省をします。  
3歳の娘と1歳の息子、そして私の3人の仲間が長路に向います。長旅を退屈させないためのおもちゃ、空腹時のおやつ、もしものときの着替えなど…後ろにはリュック、前には抱っこされた息子、右手には娘、左手にはカバンという大荷物での移動です。電車の席に座るのも一苦労、バスを降りるのも一苦労。  
まだまだ小さいわが子たちと旅することは簡単なことではありません。しかし、苦労してまで私が長旅を選ぶのには理由があります。それは、「人の温かさを感じられる」という何よりも代えがたい瞬間があるからです。旅先では毎回、必ず、見知らぬ方が声をかけてくれます。  
おばあちゃんが「お母さん、大丈夫?」  
スーツを着たおじさんが「荷物ひとつ持ちましようか?」  
小学生のお兄さんが「席、譲るの座ってください」  
若いお姉さんが「一緒に出口まで連れていきますよ」  
本当に温かい、うれしい言葉です。毎回、毎回幸せな気持ちにさせて頂き、助けを頂いております。  
子連れでの移動は、色々な方に不快な思いをさせてしまったり迷惑をおかけしてしまっていることもあると思います。それは本当に申し訳なく思います。  
しかし、色々な方にお声をかけたことで子育てを通して人の温かさになれることができ、子育てを一生懸命頑張ろう、という気持ちにさせていたれています。  
そして今、4歳になった娘が困っている方を見つけると「大丈夫ですか」と声をかけようになりました。一瞬の出会いであるかもしれませんが、出会った皆さんが娘の心を育てて下さったと思っています。本当にありがたいことです。そして私たちがたくさんの方を幸せな気持ちにさせられるような家族を目指したいと思います。